大学連携プログラム
六本木アートナイト2022 × 慶應義塾大学アート・センター
「都市のカルチュラル・ナラティヴ」共同プログラム

実施報告書

六本木アートナイト実行委員会

1. 本事業の概要

〈企画タイトル〉

六本木アートナイト2022×慶應義塾大学アート・センター
「都市のカルチュラル・ナラティヴ」プロジェクト共同企画
「アートナイトを語る―対話で紐解くアートの魔法 ARTLK Trekking」

〈共同開催〉

六本木アートナイト2022（六本木アートナイト実行委員会）
慶應義塾大学アート・センター「都市のカルチュラル・ナラティヴ」プロジェクト

〈企画概要〉

六本木アートナイトと慶應義塾大学アート・センター「都市のカルチュラル・ナラティヴ」プロジェクトの共同企画として、六本木アートナイトのフィールドを活用し、慶應義塾大学の学生を対象者に全6回のワークショップを実施した。今年度は、メインイベントのリアル開催に合わせ、参加学生が実際に六本木アートナイトに来場し、作品を鑑賞したり、六本木エリアを散策したりする機会を設けた。新型コロナウイルス感染症の影響により前景化した「対話」の重要性から、グループワークやインタビューの場を創出し、六本木アートナイトをめぐるキーワードをもとに、参加者の関心のあるテーマを掘り下げていった。

〈事業の背景〉

六本木アートナイトは、官民一体の事業として幅広い関わりとともに成長してきたが、「産学官」の「学」との連携を一層強化すべく、地域の教育・研究機関である慶應義塾大学アート・センター「都市のカルチュラル・ナラティヴ」プロジェクトとの共同企画を2019年度より開始している。六本木アートナイトを通じて、港区の六本木エリアが将来にわたり、芸術文化の街となる基盤の確立や、アートを利用したエリアブランディングの効果的な発信方法を模索するため、慶應義塾大学アート・センターの専門分野である「アート」や「アーカイブ」を切り口とするワークショップにフィールド提供を行うこととした。また、地域の若年層とともに、六本木アートナイトのように街中で展開するアートの役割を再考することで、長期的な観点からアートを用いた活動的で豊かな地域社会を実現していく可能性を模索するねらいがある。

〈目的〉

- 六本木アートナイトへの学生参加を増やし、長期的な視点で六本木エリアにある美術館等の施設へ若年層が足を運ぶことを促す契機の創出。
- 区内の現役大学生を対象に、地域の文化資源の発掘と現代アートの鑑賞機会の提供。
- 現代アートに対する親しみや関心を高め、理解を深める。
- 六本木アートナイトに参加し、その体験を掘り下げて語り合うことで、現代アートと日常・社会の結びつきを学ぶ。
- 都市型フェスティヴァルのアーカイブについて検討する。

〈開催期間〉
・企画ディスカッション：2022年7月〜9月
・ワークショップ実施期間：2022年9月〜11月

〈主な会場〉
・オンライン（Zoom使用）
・慶應義塾ミュージアム・コモンズ（KeMCo）
・六本木アートナイト各会場

〈対象〉慶應義塾大学学生の希望者

〈参加人数〉
・企画チーム（事前の実施内容の検討から加わる、より積極的な参加学生）：3名
・参加学生：15名

2. 実施内容詳細

ワークショップ全6回（個別ワークや作品制作を除く）
今年度はコロナ禍で重要性が増した「対話」を切り口に、参加学生は、2年ぶりのリアル開催となった六本木アートナイトのメインイベントに来場したのち、各自の興味関心に合わせたグループで六本木アートナイトの関係者に実際にインタビューを行なった。また、インタビューで得た知識を踏まえ、グループ内で対話を行い、アウトプットを制作し、学びをまとめていった。
昨年度と同様に、今年度も通常の授業で用いられるプレゼンテーションの発表といったアウトプットのみならず、実際に手を動かし能動的なアウトプットを前提とした学びの場を目指した。さらに、「対話」を軸に展開した本プログラムでは、実際に人に会い、対話をするというリアルなコミュニケーションを重ねていくことで、都市型のアートフェスティバルに多様な価値観が内在することを示し、参加学生に向けて社会とアートの関係性を紹介する機会となった。

#1 オリエンテーション　9月15日（木）18:00〜20:00 慶應義塾大学KeMCo／オンライン
参加学生の自己紹介のほか、オリエンテーションとして参加学生へプログラムの概要を共有した。
• プログラム・アウトプットイメージの説明
• 六本木アートナイト2022の概要説明・資料共有
• 六本木アートナイト2022に参加するグループ分け
• 「六本木アートナイトをめぐるキーワード」、六本木アートナイト2022参加時の注意事項を共有

#2 六本木アートナイト2022 フィールドワーク：六本木アートナイトメインイベントへの来場
9月17日（土）〜19日（月）六本木アートナイト2022各会場
参加学生はグループに分かれ、六本木アートナイト2022のメインイベントに実際に来場し、後のアウトプットの参考となる素材（写真・音声・グループ間の対話の記録など）を収集。ルートや日程、参加するプログラムなどは、各グループに委ね、グループ内で対話をしながら街をめぐった。
※9月19日は台風対策に伴う展示スケジュールやプログラム内容の変更があった。

#3 フィールドワーク振り返り 慶應義塾大学KeMCo／オンライン

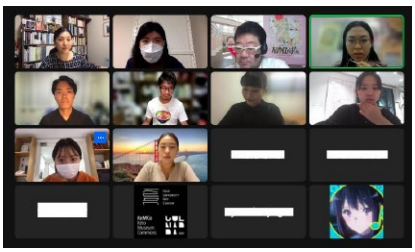
六本木アートナイト2022に来場した際の体験や感想をグループ間で共有し、次のインタビューに向けたキーワードを抽出していった。

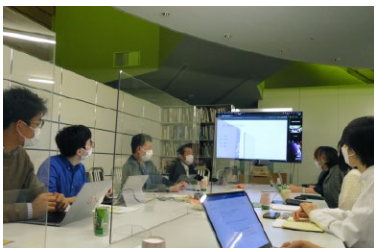
- グループで鑑賞体験を振り返り、一番注目が集まった作品を発表。
- 参加学生の関心に基づき「六本木アートナイトをめぐるキーワード」をもとに、グループを再編成しディスカッション
- 今後のグループ活動の調整（インタビュー先の共有、日程調整等）
- インタビューに伺うときの注意についての共有（質問の事前確認、記録の許可など）

#4 インタビュー・セッション〈六本木アートナイト関係者インタビュー〉

六本木アートナイトに関わる方を対象に参加学生からのインタビューを実施。参加学生が主体となり、参加学生の関心をもとにグループに分かれ、関係者にインタビューを進めていった。インタビュイーとなった六本木アートナイトを支える人々は、六本木アートナイト実行委員会事務局長からはじまり、参加アーティスト、社会包摂に関する企画協力を依頼しているNPO法人、地域を担う団体、さらには行政担当者など。多様な観点で六本木アートナイトを紐解いていき、さまざまな人々が関わる六本木アートナイトをより深く知ることで、アートと社会の関わりを理解する機会とした。

- **10月17日（月）6限　会場：オンライン**
  街づくりと社会・アートの関わり
  インタビュイー：六本木アートナイト実行委員会事務局長　三戸和仁氏
- **10月20日（木）6限　会場：オンライン**
  現代アート・アーティストの視点から
  インタビュイー：三原聡一郎氏（六本木アートナイト2022参加アーティスト）
- **10月21日（金）6限　会場：森美術館**
  地域とアートの関係
  インタビュイー：六本木商店街振興組合 理事長 臼井氏、堀井氏
- **10月26日（水）6限　会場：慶應義塾大学KeMCo**
  インクルーシブ・作品鑑賞という視点から
  インタビュイー：NPO法人エイブルアート・ジャパン
  （六本木アートナイト2022インクルーシブプログラム企画協力）
- **10月27日（木）6限　会場：慶應義塾大学KeMCo**
  文化政策／行政・中間支援という視点から
  インタビュイー：アーツカウンシル東京 高橋陽子氏



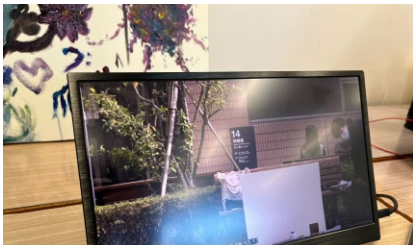


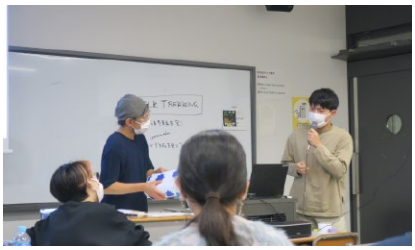
#5 中間報告・アウトプット制作のディスカッション
10月24日(月)18時30分～20時 慶應義塾大学KeMCo／オンライン

- グループでの活動内容・進捗を全体に共有
- アウトプット作成に向けてのアラインメント・意見交換
- 六本木アートナイトでの体験、その後のインタビューでの学びをもとに、グループ内でディスカッションを行い、その記録をもとにアウトプット(映像、テキストなど)を制作。

#6 最終報告会 11月12日(土)14時30分～17時 慶應義塾大学三田キャンパス南キャンパス441教室
トークおよび講評：鈴木一郎太氏

最終報告会として3つのグループに分かれ、一連のワークショップで得た学びを発表した。ラジオのような音声データ、関係者へのインタビューをまとめた冊子、大学内で制作した映像作品など、学生主体となって新たなアウトプットを作成し、活動をまとめていった。通常のパワーポイントを使ったプレゼンテーションといった形式の発表ではなく、参加学生が実際に手を動かしたものを活用するというアプローチで成果を共有する会とした。





3. 参加学生からのフィードバック

◎ワークショップに参加した感想

- 六本木の街歩きや各関係者へのインタビュー、そして学生やチューター達との意見交換を通じて、アートに留まらない新しい発見や気づきがたくさん生まれました。価値のある時間でした。
- 普段接する機会の少ない他学部の学生や、アーティスト・主催者側の方々にお会いしてお話を伺ったり、意見交換をしたりと貴重な経験をさせていただきました。よく友人を誘って美術館の展示を見て意見交換を行っているのですが、アートに対してポジティブな反応なのか、教養的な作品解釈以外の発言をしづらい雰囲気があるように感じていました。そうしたことがアートは敷居が高いと感じさせる要因だと思います。今回のアートトレッキングでは、学生同士の率直な感想を受け容れる場と、アートの制作・運営側の視点に触れられる場の両方があったことで、現代アートに対してよりフラットかつ自由で素直な感想を持てるようになりました。一見よく分からない作品でも、自分なりの気づきや素朴な感想を抱き、分からないなら分からないなりにどこが妙だと感じたのか素直に言えるようになると、もっと様々なジャンルのアートを楽しめるような気がします。
- 短い時間でしたが、本当に実りのある楽しい時間を過ごすことができて、嬉しく思います。特に印象的だったことは、六本木アートナイトでの体験とアウトプットでのゲリラ的に制作したアート作品です。私たちは六本木アートナイトで当初予定していた作品はほとんど見ることができず、偶然の出会いを大切にしながら六本木アートナイトを楽しんだのですが、実は一番一般のお客様に近い形での参加だったのではないかと思いました。その中でアートを通した交流や他愛もない話を含めて、このイベントの素晴らしさを感じ、より六本木という街やアートの持つ力について興味を持つようになりました。さらに、アウトプットで最も印象的だったことは、私自身、参加してくれた学生との交流を通してアートナイトの時に感じた高揚感と似た感情を持ったということです。まさに、偶然の出会いの持つ力と言いますか、この企画を開催していなければ絶対に話すことのなかった様々な人と話すことができて、とてもうれしかったです。アウトプットもとても褒めてくださり、嬉しい気持ちです。
- 「対話」をテーマに、自分の考えを共有しながらアートナイトを巡ったことはすごく楽しく充実した時間になりました。また、インタビューで自分の興味分野について、実際に活動されている方にお話を伺うことができ、自分の視野が広がると同時に現場の様子をリアルに知ることができました。特に、最終アウトプット時のゲストの鈴木様のお話は、「自分と対話したのか」「現代アートを受け入れづらくしている理由は効率性や合理性を求めすぎているから」など、なんとなくわかっていても実感してこなかったことを言葉にして伝えてくださり、ハッとすることが多く、印象に残りました。
- 全体を通して、リアルで人や場所、作品と出会う重要性を改めて感じました。インタビューセッションで関係者の方にお話を聞くことができたのはとても貴重な経験でした。たくさんのご調整、本当にありがとうございます！最終成果のフィードバック講師の鈴木さんとは、もう少しディスカッションをしたかったです。
- 社会人になってもアートに関わり続けたいなと考えた（機会があるかは分からないが）！

4. 慶應義塾大学アート・センターからのフィードバック

2年ぶりとなるリアル開催となり、学生たちが六本木アートナイトを「体験」することができたことはチューターとしても大変嬉しいことであった。概要の説明はあったものの殊更には事前のインプットがなく、一般参加者の皆さんと同じ立場で六本木アートナイトを楽しんだ後に、その裏側を知ることは学生にとってより興味や好奇心を惹かれる仕掛けとなったのではないだろうか。実際に自分が目にした作品・味わった体験がどのような意図を持って創られていたのか、また立場の違う多様な関係者の方々が具体的に何を期待し、何を目指し、そしてどのような形で実現に至ったのか。イベントを「体験」したからこその、共感や深い理解につながったように感じる。私の印象ではあるが、この２年間はワークに入る前から持っていた興味などに根差して質問をする学生も多かったように思われる。しかし「共通言語／体験」があることでインタビューを受けて下さった皆様との会話においても、グループ内のディスカッションにおいてもより内容が濃い、密度の高い発言が印象に残った。

主体的な学びの文脈の中で行う「対話」。授業のプレッシャーとは離れた場で自由に発言する中で、自分が何に興味を持っているのか、どうしてその対象に興味を持っているのか、といった事柄が明確になっていったように見受けられた。人生の進路を決めなければならない大切な時期において、こうした自己分析を促すような思考は非常に有意義であったと思われる。アートそのものや作品、アーティストへの興味、地域の様々なコミュニテイにおけるコミュニケーションのあり方、エリアブランディング、社会とどうエンゲージしてゆくか、など多角的なトピックスが挙がってきたことは、実技を主体とするような美術大学とは違う慶應義塾大学らしさがあったように感じた。

「対話」とは、つまり「人と出会う」ことである。このワークショップに参加しなければ「出会う」ことが難しかったであろう、インタビューを通じて貴重な経験を共有してくださった多様な機関の皆様との「出会い」。またグループワークを通じた学生同士の「出会い」も、オンライン授業が２年も続いたキャンパスライフにおいては大切な時間となったことは間違いない。

〈共同開催〉

慶應義塾大学アート・センター　「都市のカルチュラル・ナラティヴ」プロジェクト

現代文化の発信地、国際都市として知られる港区は、同時に、多くの寺社仏閣や史跡、そして歴史ある企業が所在する歴史文化都市でもあります。このダイナミックな時間軸をもつ都市文化の眺望を、一層明らかにするためのプロジェクトが、「都市のカルチュラル・ナラティヴ」です。文化を巡る学術的な成果を前景化し、今昔の文化資源を相互につなぎ、文化の物語（カルチュラル・ナラティヴ）を結像することによって、現代・将来の芸術文化活動を支え、文化観光の深化を図り、日本の文化に寄せられる国際的な関心に対応することを目指しています。

六本木アートナイト2022

▮開催日時：〈メインイベント〉令和4年9月17日（土）～9月19日（月・祝）10:00～22:00
※19日のみ18:00まで　※9月3日（土）より一部作品は先行展示

▮開催場所：六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、
六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース
デジタル（公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】）
公式ウェブサイト：https://www.roppongiartnight.com/
公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight

▮主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、港区、
六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合（五十音順）】

▮助成：令和4年度文化庁国際文化芸術発信拠点形成事業

六本木アートナイト2022×慶應義塾大学アート・センター
「都市のカルチュラル・ナラティヴ」プロジェクト共同プログラム報告書

発行：六本木アートナイト実行委員会
〒106-6150　東京都港区六本木6-10-1　六本木ヒルズ森タワー
森ビル株式会社　森美術館内
URL：https://www.roppongiartnight.com/2022/